

## 赤木城跡、鬼ヶ城跡と並ぶ熊野の名城

みやこのじょうせき

# 京城跡

かつて紀宝町には、熊野市にある赤木城、鬼ヶ城に勝るとも劣らない京城と呼ばれる城が相野谷の地に存在していました。

この城は中世の熊野において、他地域と関わりつつ独自に発達していった過程を示す遺跡であるとともに、当時の地域の築城技術の到達点を示す遺跡として重要なものです。

しかし、地域住民の高齢化などによって、この貴重な城跡が忘れ去られようとしています。

この歴史遺産を未来の子どもたちへ伝えるために、地域の方々を中心となり、文化財として保護する活動を進めています。

### 赤木城跡、鬼ヶ城跡に次ぐ規模を誇る城跡

京城跡は、紀宝町の中央を流れる相野谷川の中流、相野川との合流地点の北側に位置する小高い丘にあり、かつては北山方面への本街道であった相野谷筋を一望できる、戦略的に最適の地にありました。

室町時代に築城されたと考えられているこの城は、海拔約70mあまりの山頂付近に設けられた区画を中心に、東西約450m以上にわたる大きさがあります。

北からの敵の来襲に備え数々の工夫が凝らされているほか、当時としては数少ない石垣を用いた城壁も築かれています。

これだけの規模やつくりを持つ城は東紀州でも、熊野市にある赤木城、鬼ヶ城に次ぐものであり、歴史的、文化的にも非常に価値の高い城であるといえます。

しかし、京城跡について記された文献は少なく、多くの謎に満ちた城でもあります。

### 忘れ去れようとしている貴重な歴史的遺産

この場所には太古から大里地区の墓地や齋ヶ丘神社があり、霊場として大切に扱われていました。

また、「要害山」や「サイレン山」などと呼ばれ、子どもたちの遊び場などとして地域の住民から親しまれてきました。

しかし、地域住民の高齢化が進み、徐々に山林の管理が困難になってきているため、樹齢70年から80年ほどの杉がいたるところに生え、さらに、城の一部が崩れてきているほか、頂上の見晴しを遮っています。

また、親から子へと伝わってきた伝承も途切れ、貴重な歴史的遺産が忘れ去られようとしています。